

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

一般社団法人アスラサポート

②事業者情報

名称:	ラボリジュニアセカンド	種別:	放課後等デイサービス
代表者氏名:	太田 よし美 (管理者 浅野 啓之)	定員(利用人数):	10 名
所在地:	〒 350-0272 埼玉県坂戸市末広町8番地16 協和第3ビル	TEL	049-298-8402

③評価実施期間

令和6年5月17日(契約日)～令和6年10月3日(評価結果確定日)

④総評

◇特に評価の高い点

- 職員全員が「今」だけを見るのではなく「将来」を見据えて支援を行っている
職員は子どもとのコミュニケーションで名前を「さんづけ」で呼び合い、相手を尊重する関係性作りを行っている
また言葉使いにも細心の注意を払い丁寧な声掛けを徹底することで、子どもたちの言葉が次第にきれいになっていくことを実感している
きれいな言葉を使うことが将来子どもたちがより良いコミュニケーション築く際の糧になるようサポートを続けている
- 子どもへの温かい支援
おやつメニューなどはただ単にメニューを記載するのではなく、子どもたちが待ち遠しくなるような名前をつけたり、物置だった階段下のスペースを活用して秘密基地を作るなど子どもが楽しくワクワクできるよう工夫している
片付けは子ども達が自ら整理整頓しやすいように写真で見本掲示し、分類ごとに色分け表示している
いたるところに細やかな配慮があり子どもへの温かい支援を感じる
- 働きやすい環境づくり
朝礼で当日の実施事項や役割分担を綿密に打ち合わせし業務の共有と見直しが徹底されている
また休みは固定曜日になっており、職員の働きやすい環境の1つとなっている
さらに情報共有システムを導入し、徹底した共有と業務の効率化が図られている
また、業務分担を詳細に明確化し「見える化」を徹底することで全員がその内容を把握できるよう努めており職員が安心して働ける環境づくりに努めている
- 法人の積極的な組織改革と機運
地域の障害福祉が将来継続して安定運営ができるよう法人は広く意見を取り入れ常に改革を進めている
現場からの意見を拾いやすくする組織を整備し、事業所を横断させた委員会プロジェクトを作り共有課題を解決するなど職員の新たな視野の広がりも見せている
また経験問わずチャレンジできる社風があり主任・リーダー職の育成が積極的に行われている
事業報告・事業計画を共有する社員総会を年度末に開催し、毎月の事業所別職員会議には代表自ら参加するなど法人と職員で課題や目標到達度など共有されており事業所全体で地域の障害者福祉を担って行こうとする機運が随所に見受けられた
今年度は福祉サービス第三者評価を法人グループ全事業所で実施するなど自ら課題に向き合い改めて質の向上に積極的に努めている

◇今後期待したいこと

マニュアルの完備

福祉事業所の安定した運営で欠かせない標準的マニュアルの方針、整備、見直しを期待します

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

『利用児童に対してのさん付け』について、特に評価の高い点と評価を受け、自身の事業では当たり前の行動であったため、評価結果として驚きつつも、事業として1つ誇れるものが出来たと感じました。こちらについては方針を変えず、引き続き取り組んでいきたいと思ひます。

おやつメニューについては食はず嫌いの児童が多く、食べる前から『いらぬ！』という児童が多発していたので『面白いネーミングにしたら食べるのでは？』『まずはやってみよう！』『効果が見込めないならまた変えれば良い！』と取り組んでみたものです。『まずはやってみよう！』と行動化に移したことが評価になったのかなと思ひます。また『児童の視点を持ちつつ、面白いネーミングセンスを考える』というのも職員にとってのモチベーションになっています。

また自身としては特に大事にしている事、『働きやすい環境づくり』を意識して取り組んでいたので、今回評価の対象となったことに嬉しく思ひます。

『働きやすい環境＝職員の定着＝チームとしての支援の質の向上』であると考えています。

こちらについては現場職員と日々相談しながら、職員全員で働きやすい環境を構築していければと思ひます。

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり